

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【片柳小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	算数においては数と計算について課題が認められた。全体としてはミライシードのドリルパークの活用による、反復練習による効果も大きいと考えられる。特に、高学年への算数における基礎学力向上の方策を考えて実行していきたい。	
思考・判断・表現	国語においては、書くことに課題が認められた。学校課題研修でも取り組んでいるICT機器の活用もしながら改善を続けていきたい。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 国語においては言葉の特徴や使い方に関する事項について課題が認められた。算数においては数と計算について課題が認められた。 【指導上の課題】 児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ ミライシードのドリルパークやスタディサプリなどの活用による、反復練習に取り組む。特に、高学年への算数における基礎学力向上の方策を考えて実行していく。【自習時間や長期休みの課題として実施】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 国語においては、話すこと聞くこと読むことに課題が認められた。算数においてはデータの活用に課題が見られる。 【指導上の課題】 児童に主体的に考えさせる場面が不十分である。	⇒ 元年度調査より、数値の向上も見られるので、引き続きICT機器の活用もしながら改善を続けていく。【毎回実施】活動の中に共同編集を位置づけ、協力的な学びを通して考えたり表現したりすることができるようにする。【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】

全国学力・学習状況調査  
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果分析(2月)
知識・技能	B	テスト前の授業や宿題でドリルパークを取り入れ、理解の定着やつまずきを取り除く手立てとして活用することができ、自校テストの結果に伸びが見られた。「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目では、R6年度さいたま市学習状況調査における肯定的な回答の割合は93%であった。
思考・判断・表現	B	学校研修の中で、全教員がICTを活用した研究授業や研修授業を行い、研究協議会等を通して、指導技術を高めたり教材研究深めたりすることができた。R6さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は平均して97%であり、取り組んだ成果が表れている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	算数の、速さの意味について理解しているかどうかを捉える問題に課題がみられた。単位換算を行わず、数字をそのまま使用して立式する児童が多く、速さや時間に対する理解が不十分であると考えられる。また、国語と算数両方を通して共通する課題は、文章問題を構成する語句が増えると正答率が低くなる傾向が見られる。	
思考・判断・表現	国語の、物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く問題に課題が見られた。問題形式は記述式である程度の量の理由を書く必要のある問題であるが、無回答率が多く見られた。また、算数でも折れ線グラフから必要な数値を読み取り条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題も無回答率が多く見られた。これらのことから、記述式の問題はよく考える前にあきらめてしまう児童が多い傾向があると考えられる。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「文の中の主語と述語の関係を理解することができる」において課題がみられた。文章の意味を考えて使うことができていると認められる。算数の「示された場面のよう、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」において課題がみられた。単位量あたりの大きさが認識できていないと考えられる。	
思考・判断・表現	国語の「自分の考えが伝わるように、適切な図表を用いて書き表し方を工夫することができる」において課題がみられた。自分の考えを文章に表すことに苦手意識があると認められる。算数の「円グラフに表されている事柄を読み取ることができる」において課題がみられた。データを読み取ること苦手意識があると認められる。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	高学年では、テスト前の授業や宿題でドリルパークを取り入れ、理解の定着やつまずきを取り除く手立てとして活用することができている。また、夏休みの宿題でスタディサプリを活用し、一学期の復習を行うことができた。やっではない児童には夏休み中に連絡をいれるなどスタディサプリの機能を効果的に活用できた。活用は行っているがもっと積極的に進めるよう進めていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	エンジェルリストやICT支援員による研修を定期的に行うことにより、教職員のICT技能の向上や教育用アプリの活用方法の共通理解を図ることができている。その結果授業において共同編集を行う様子も多く見られる。反面、積極的に行う教員とそうでない教員の差も大きく見られる。	学校研修の中で、全教員がICTを活用した研究授業や研修授業を2・3学期中に行う計画を立てたので、随時行っていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)